

ききょう苑通信



2023年10月
第30号



発行：医療法人社団 松和会 介護老人保健施設
「ききょう苑」(年4回発行、創刊2016年4月1日)
〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目6-1237
TEL: (0463) 92-8101 ✉ kikyoen@showakai.or.jp



ききょう苑に、和太鼓が響く！！

～神奈川県立中央農業高等学校・和太鼓部～



願わくは、これからも、ぜひ、ききょう苑で、あの和太鼓を響かせていただきたいと感じました。
最後になりましたが、今回の和太鼓演奏会を披露してくれた部員の高校生の皆さん、そして、顧問の先生、学校関係者の方々に深く感謝いたします。ありがとうございます。それにしても「若さって、本当に素晴らしい！」と実感しました。
(入所事業部門 介護部主任 岡部 大祐 同介護士 高島 紀江)

神奈川県立中央農業高等学校、和太鼓部の皆さんに、感謝、感謝です。たくさんの元気をいただきました。
この数年、コロナ禍での生活の制限で、気持ちもさみがち、ついつい下を向きがちだったご利用者、そして職員は、みるみるうちに、その演奏に引き込まれ、笑顔と手拍子が沸いていました。



2023年9月30日、ききょう苑に、勇壮、そして躍動感に満ちた、和太鼓が鳴り響きました。
神奈川県立中央農業高等学校の和太鼓部、高校生14名、顧問の先生2名が、ききょう苑に来て、和太鼓の演奏をしてくださいました。
お昼過ぎ、高校生の皆さんが、到着された時には、皆さんおとなしそうで、礼儀正しい姿は、初々しささえ感じました。ところが、演奏が始まると、その和太鼓の第一打とともに、雰囲気は激変し、その躍動感、力強い演奏は、ただただ、圧倒されるばかりでした。

栄養管理は、リハビリに貢献!!

図1：当苑ご利用者の栄養アセスメント



リハビリテーションにとって栄養、そして、その管理は重要です。栄養状態が悪い身体で運動を行うと、不足したエネルギーを作り出すために筋肉が分解され、逆に筋肉量が減少してしまいます。リハビリの効果をも十分に発揮するためにも、栄養状態を適切に把握することは大切です。

ききょう苑では、リハビリテーションにおける栄養管理に注目し、2022年4月から、ご利用者ごとに、管理栄養士を中心に、全職種が協力、検討、解析を繰り返し、リハビリテーションの効果を少しでも引き出せるようにと取り組んでいます(図1)。

ご利用者に対して、栄養に関する総合評価を行い、それをお話することで、より一層のリハビリテーションの効果を上げるとともに、ご家族にもご協力していただけるようにしています。

ちなみに、通所リハビリテーションでは、この取り組みを始めた2022年1月と比較して、2023年4月の、ご利用者の栄養に関するデータは、大きく改善してきました。

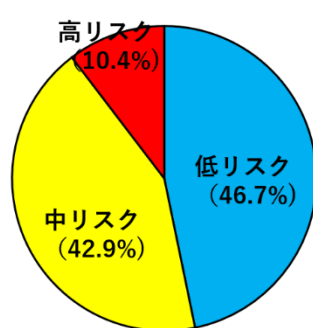
すなわち、当初と比べて、やせ形タイプのご利用者は減少し、また、低栄養になる可能性があるご利用者の割合は、そのリスクが高い、あるいは中等度のリスクがあるご利用者は減少し、7割近くのご利用者で、低栄養になるリスクが低いと評価されました(図2, 3)。

これからも、その効果をご自宅でも十分に発揮できるように、管理栄養士を中心に、ご利用者、そして、ご家族との連携を深め、しいては、ご利用者がより有効なリハビリテーションが行えるようにサポートを続けていきます。

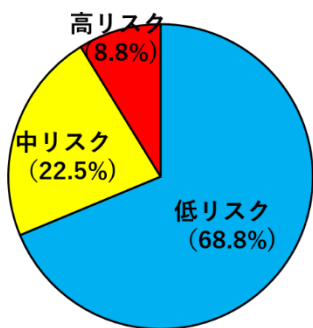
(栄養部主任・管理栄養士 木我 みな美、通所リハビリテーション部主任 白倉 佐知)

図3：低栄養のリスク

2022年1月 (77名)



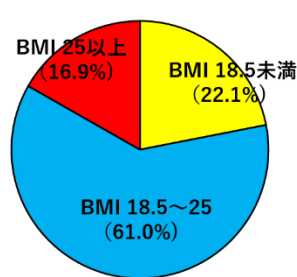
2023年4月 (80名)



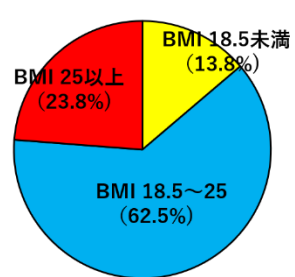
■リスクが低い ■リスクが中等度 ■リスクが高い ■リスクが低い ■リスクが中等度 ■リスクが高い

図2：体格のタイプ (BMI)

2022年1月 (77名)



2023年4月 (80名)



■やせ型タイプ ■標準 ■肥満型タイプ ■やせ型タイプ ■標準 ■肥満型タイプ

※BMI(body mass index)：身長と体重から、肥満の程度を計算します。「体重(kg)/身長(m)の二乗」BMIが、18.5~25.0が、適正な体型といわれています。数値が高いほど、肥満度が上がります。

入所で敬老会を開催しました

9月18日、入所ご利用者とスタッフで敬老会を行いました。今年の誕生日で祝い年を迎えるご利用者は14名いらっしゃいました。スタッフとご利用者で、健康・長寿のお祝いと、演劇の上映を行いました。

今回の演劇は春日八郎の歌で有名な「お富さん」。『しがねえ恋の情けが仇...』というセリフでご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、この「お富さん」を一人のご利用者によりハビリの一環として面白おかしくアレンジしていただき、台本作成をお願いしました。その台本を基に職員が役を演じ、撮影・映像編集、一部のご利用者にはナレーションを担当していただき上映するという新しい試みでした。

職員が演じました！



ご協力いただいたご利用者には感謝申し上げます。
(入所時事業部門 和泉屋 圭紀)



通所で園芸活動やっています！

昨年に引き続き、園芸に興味のあるご利用者で園芸活動を行いました。栽培している野菜は、5月に苗を植え付けたトウモロコシ、ゴーヤ、エダマメ、ニンジン等の4種類です。園芸に参加したご利用者の協力もありすくすくと成長しました。トウモロコシとエダマメは6月〜7月に、ゴーヤとニンジンは8月〜9月に収穫しました。お米も栽培し、9月に収穫しました。参加したご利用者は皆一様に、収穫した野菜を眺めながら満面の笑みを浮かべていました。

(通所事業部門 野地 幸広)



通所夏祭り！



ご利用者同士の会話も弾み、笑い声があふれる楽しい時間となりました。今後も、季節感を感じられる充実した内容の行事を開催してまいります。
(通所事業部門 田中 健司)

家族介護者教室に参加してきました

9月1日、伊勢原市主催の家族介護者教室に老人保健施設として参加してきました。施設案内の動画やスライドを使い、利用料金の概要や、老健の上手な使い方をご説明させていただきました。自宅での介護が難しくなってきたからサービスをご利用されるのではなく、自宅での生活を続けるために、事前に老健をご利用されることが重要であることを説明させていただきました。

人生百年時代。年金等の収入面や、老後に掛かる費用等で心配なのに、加えて家

族が施設入所となると、さらに不安が高まります。自宅での生活が難しいから施設入所とお考えの前に、老健には通所や訪問といった在宅リハビリという選択肢もあります。老健のご利用についてご相談があれば、さきよう苑の後藤までお気軽にお問い合わせください。
電話 0463(92)8101
(入所事業部門相談部 主任 後藤 佑介)



入所フルーツバイキング



8月23日、入所ご利用者を対象に毎年恒例のフルーツバイキングを開催しました。お一人ずつ好きなフルーツを職員が取り分け、召し上がっていただきました。スイカやメロンの飾り切りに「きれいだね」とみなさん喜んでいられました。
ちなみに人気ランキングは：
1位 スイカ
2位 ブドウ
3位 メロン でした。
(入所事業部門 部門長 布川 幸子)

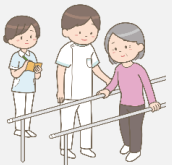
(入所事業部門 部門長 布川 幸子)

理学療法士学生による実習

9月、横浜リハビリテーション専門学校から2名の理学療法学科学生が見学実習に訪れました。

通所リハビリや訪問リハビリの実習を通じて、地域包括ケアシステムに係る様々な職種との関わりと、そこで働く理学療法士の役割を理解してもらい、将来、地域理学療法分野で活躍できる人材を育成していきたいと考えています。

私たち指導者も実習を通じて、改めてご利用者との関わり方や、理学療法士としての役



(訪問事業部門 主任 越地 正樹)

割や責務について考える良い機会となりました。
さきよう苑ご利用者におかれましては、実習へのご協力ありがとうございます。
ざいしました。

〈創立記念祭開催のお知らせ〉

10月29日(日)、毎年恒例の創立記念祭を開催します。今年も新型コロナウイルス感染症防止の観点から、外部からのお客様をお迎えしての開催は見送りとさせていただきます。

今回も、入所ご利用者の方々には、職員によるバンド演奏会のお披露目や、駄菓子や懐かしのドリンクなど昔ながらの模擬店を行います。なお、当日の様子は、後日ホームページでもお知らせしますので、ご覧いただければと思います。

入所ご利用者の方々には、創立記念祭を存分にお楽しみいただけるよう、職員一同努めてまいります。ぜひお楽しみください！
(創立記念祭実行委員 田島 拓也)



〈編集後記〉

気象庁の発表によると、今年の夏は観測史上、最も暑い夏となりました。そんな暑い夏を乗り越え、ようやく秋になりました。

秋になると、「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」という言葉をよく耳にします。これらは単なる決まり文句ではありません。例えば、「食欲の秋」には、気温が涼しくなることにより基礎代謝が高まり、寒い冬に備えてカロリーを蓄えるため食欲が増す、という話があります。

さきよう苑でも、これからの季節に向けてご利用者には秋の味覚を楽しんでいただきつつ、栄養の側面からもご利用者の体調管理に努めてまいります。

(広報委員会 向笠 将)

